は自らの力によるべきものであろう。

13. 埋蔵量の表現には常に計算の基準や，計算に際しての仮定條件を明示すべきである。

14. 各國の鉱業法を ECAFE 事務局で編集して，地域内関係各國の参考資料とする。

15. ECAFE 事務局の仲介により既設の研究機関による試験・標本の交換は今後も続けたい。

16. 万國地質学会と密接に連絡を保ちつつ，アジア地域をインド——パキスタン・インドシナおよびマレー半島・東印度列島・太平洋列島・支那大陸の5地域毎に地質図を作る。

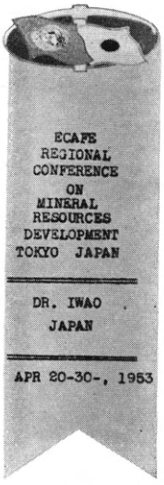
17. アジア地質鉱山学会の設立は好ましいが，この決定は今回は行わない。

18. 石炭の分類の問題は非常に重要であるから，日本およびインドから提出されたこの問題に対する報告を基として，各國の意見を ECAFE 事務局でとりまとめ，次の会議の議題とすること。

ところで，この会議は ECAFE の機構の中で委員会となつていないために，今後しばしばこの種の会議を開くことが好ましいのにかかわらず何かと不都合な点が多いから，この会議を今後定期的に開くために**委員会**（**Sub-Committee**）とするよう提案され，来るべき1954年の**産業貿易委員会**でこの会議の成果と内容とを検討の上決定することになりました。

なお，この会議の経過・成果・勧告等はなるべく早く印刷発表されるよう各國の希望に従つて ECAFE 本会議へ勧告されます。

会議の特徴と今後の問題



この会議をどのように見るかということはおそらく各人各様であつて仲々一概には言い難く，またむづかしい問題であると思いますが，客観的に見て誰でもが認めまた感ずる下記のようないくつかの特徴とも言うべきものがあります。

1. この会議は戦後初めて日本で開かれた國際会議であること。

わが國では講和條約締結後，次第に諸外國と政治的・経済的の交渉を持つようになり，わが國でも相当数の会議が行われましたが國際会議は実は初めてであります。このような國際的なしかも最初のものとして ECAFE 鉱物資源開発会議という専門的な会議が開かれましたことは，われわれ技術家にとつてはもちろん，政府当局としても会議の準備や運営には多くの予期しない困難と経験とを味つたようであります。

2. この会議の内容はほとんど技術的範囲に限られたこと。

このことはいろいろの意味と問題とを含んでいると思われます。第一は，今後かような技術的内容を主とする國際会議がしばしば開かれる可能性を示しています。第二は，このような技術専門の会議が，鉱物資源開発という大きな問題に対していかなる役割を今後果すであろうか，また経済的な問題との関連性を今後いかに調整してゆくかということであります。第三は，かような技術専門家を主とする会議であつたので，國際政治的な微妙な相互関係などに煩わされることなく，普通の経済会議に比べてかえつて充分な討論と情報の交換ができたことであります。

第四は，このような技術的な会議に対して，日本のいわゆる技術専門家，とくに地質専門家や

行政事務家，業界の人達がそれぞれ異つた感じかたをしたであろうこと，それにもかかわらず，今後はこれらの人の密接な協力が國際場裡においては，より必要となるであろうこと等であります。

3．この会議には石油やウラニゥムなどの資源がまつたく討議の対象とされなかつたこと。

この意味をわれわれは正しく了解することはできないし，微妙な問題を含んでいるかも知れぬと思われますので触れたくはありません。

4．この会議には中共と北鮮とが参加していないこと。

両政権代表の参加を求めることは前にも述べましたように不可能なことではありましたが，両政権が現実に支配している地域が，アジア地域内でもつとも資源的に重要な位置を占めていることから，純粋に技術的立場から考えると不都合な点なしとは感ぜられません。

5．ソ連が協調的態度に終始したこと。

従来のソ連代表の態度に比べて非常に協力的であつたと言われます。ソ連の関係事情についてはそれほど具体的に触れた説明はなかつたが大体その輪廓を推察し得る程度の説明が行われました。

6．戦後の独立國でいわゆる後進國といわれる諸國，戦前アジアに広大な植民地を有し，今なお若干の植民地を持ち，その実力を保持している欧州諸國および敗戰國日本等がそれぞれ代表を送つて一堂に会したこと。

地質調査所を訪れた ECAFE 關係者
最前列右より　中華民國　チン氏　マレー　サーピス氏　英連邦　デイクシイ氏　アメリカ　アンドリユース氏　フランス　スオレン氏　タイ　セサブト氏　アメリカ　アービイング氏　韓國　朴氏

當所會議室における　三土所長の挨拶　隣は駒形工業技術院院長

そこには政治的・経済的・民族的・心理的の微妙な背景があつたわけでありまして，会議の運営にもあるいはわずかながら見えない影響を與えたかも知れません。しかし，問題がほとんど技術的範囲に止どまつたためか表面的には討論はかなり自由で，かつ友好的・協力的でありました。むしろ技術的レベルの高低と語学力の優劣，國民性などが発言の多寡を支配したようであります。

7．日本は地域内では人口が極度に過剰で，工業がおおいに発達し，調査開発も著しく進み，資源に乏しいというような特殊な狀態に置かれた國であつて，会議における発言内容も自らほかの國の代表とは非常に異るところがあつたこと。

8．会議の内容の取りまとめと　いうべき膨大な資料が作製されたこと。

おそらくアジアの鉱物資源に関して，これほどの取りまとめが行われたことは戦前戦後を通じて初めてでありまして，今後の問題の具体化にとつて本当に貴重なものといえましよう。

これは今後アジアの鉱物資源開発に対して日本がいかなる立場におかれ，どのような態度をとるべきかについて多くを暗示したのであります。